参考資料『ジャズ・シンガー』の視聴ポイント

1. 視聴参考と要点|導入パート

■ 冒頭字幕 「あらゆる生ける魂（注：人間のこと）の内側で、精神は表現を求めて泣き叫ぶのです。おそらく、このジャズの哀れな、嘆きの歌は、つまりは、誤解をうけた、祈りを捧げる者の表現なのです。」

- この有名な冒頭の字幕は、この映画の主要なテーマを表現

■ 続いての字幕 「文明化以前の音楽のリズムにときめく、ニューヨーク市のゲットー」

- ゲットー|中世から近代にかけて、欧州各地に設けられていた、ユダヤ人の強制居住地域のこと
  米国においては、都市において、経済的に恵まれない少数民族が集住しているエリアをも意味する

■ 1:59「シナゴーグ（注：ユダヤ教の礼拝所）で、ユダヤ教の賛美歌を歌うハッザーンであるラビノヴィッツは、民族の古代からの伝統に固執していた」「今夜、ジェイキーはコル・ニドルを歌わなければならないのに、なぜここにいないのか」

- 話の前提|歴史的事実として、ニューヨーク市には多くのユダヤ系の人々が移住してきていた
- ユダヤ人が信ずるユダヤ教には色々な宗派があるので、宗派ごとに色々違いがあるのだが、ユダヤ教では掟を実践することを重要視するので、礼拝所で賛美を歌う（＝重要な掟の 1 つ）際に、皆をリードして歌うハッザーンは非常に重要な役職

■ 2:18-13:00 話の流れの要約

- 母親は、ジェイキーはハッザーンになりたくないと父親に説明
- 父親は、5 世代にわたり、ラビノヴィッツ家はハッザーンを勤めているので、息子はハッザーンになるべき
- ラグタイム（黒人音楽に影響を受けた音楽、ジャズの 1 ルーツ）を歌う少年ジェイキー
  * 映像において、歌と口は、あっていない
- 母親|ジェイキーは父親に教えられ全ての賛美歌を父親同様に知っているが、心に響いていない
- ユダヤ人ゲットーの実力者|「なんでお前の息子はサルーンで、ラグタイムを歌っているんだ!」
- 父親からすれば、ラグタイムとは比べるべくもない素晴らしい神の歌である讃美歌を教えたのに、（父親からすれば）低俗な歌であるラグタイムを息子が歌うなんてとんでもない → 「父親と争い、家出」

2. 視聴参考と要点|家出後

■ 13:00|時は過ぎ、家から 3000 マイル離れた場所（サンフランシスコ）

- ジェイキー・ラビノビッツは、ジャック・ロビンという芸名でジャズ・シンガーとなったが、まだ無名
  *注 ジェイキー・ラビノビッツは、典型的なユダヤ人の氏名、英米の氏名の芸名をつけている

■ 14:04 ジャックの歌は「同期」撮影されているので、彼の歌と口の動きに注目

- 17:27 ジャックのセリフ” wait a minute, wait a minute, you ain't heard nothin' yet”
  「お楽しみはこれからだ」は、映画史上に残る有名なセリフ このセリフはトーキー
- ジャックの歌に感動し、彼が成功のチャンスを得るのを助けたいという女性の出現

■ 21:28 価値観が違う、父子の関係は時がたっても変わらず

- 22:15 ジャックから、母親への「稼げている、メアリーという素晴らしい女性のおかげで、成功を掴んだ、ジャック・ロビンという芸名を名乗っている」という、近況を伝える手紙

■ 22:54 “shiksa”と恋に落ちたのだろう（メアリー・デールは非ユダヤ人の氏名）

- shiksa|北米地域のユダヤ人の非ユダヤ人への蔑称
  伝統的な価値観を持つユダヤ人は、ユダヤ人はユダヤ人と結婚するのが当然という考えを持つ
- 23:06 アメリカ風の名前の芸名を名乗るユダヤ人もいる、母親はメアリーを shiksa だと思いたくない

■ 23:59 「手紙を絶対開けるなと言っただろ、私たちに息子はいない!」

3. 視聴参考|メアリーと一緒に劇団の全米ツアーに参加～ジャックの帰郷～ブロードウェイのチャンス

■ 24:12 メアリーとジャックが所属する劇団の全米ツアー（メアリーの約束実現）

- 26:28 ジャックがメアリーに恋をしたと気づいたダンサーたちから、うまくいかないと陰口を叩かれる

■ メアリーがシカゴ州立劇場でのチャンスを得たので、二人は離れ離れに

- 28:44 ジャック「僕が名をあげたら、あなたのおかげ」

■ 29:52 出先で、メアリーに手紙を書いている

- 30:25 ジャックに自分の役を回すのなら、劇団を辞めると怒っている女性はいるが、客からの評価を受けてきたジャックが最高の役なのは当然との評価
- ジャックに電車に乗るな、彼の出演が取り消されたという連絡
  → 実は、ジャックが本場であるニュークのブロードウェイの舞台に出られるように、
  劇団の契約から解放してくれた → 故郷に帰ることができる、母親に会える

■ 33:06 父親の 60 歳の誕生日、（注 ジャックの帰郷の日）

- 母親と再会、38:44 ビッグチャンスを得たと母親に告げる
- ショーで歌う予定の歌を歌う
- 43:15 父親|シナゴーグで歌う歌を教えたはず、そこで歌うべき
- → 父親は息子に出ていて、ジャックは「わかってくれない」「家には二度と戻らない」

■ 47:23 舞台「April Follies」のリハーサル会場

- 48:28- 「きみの見つけた人が、優秀だといいんだけど」「心配入りません」
- 49:21 ジャック「あなたがここにいるとは知らなかった」
- 49:33- ジャック「このショーで踊るの?」「私が主役ということになっている」
- 50:21 メアリーの強い推薦があった

4. 50:48 禍がラヴィノビッツ家の前で立ち止まる

■ 51:25 メアリーとジャックの出演するショーが、明晩より開幕

- 51:38 父親の重病を知れば、ジェイキーはきっと戻ってくる

■ 52:49 あなたが当たりをとるに違いない

■　ジェイキーに会いにきたゲットーの顔役

- 55:12 からの展開

  「明日は贖罪の日だから礼拝堂で歌ってほしい」

  「父は私に歌ってほしくないでしょう」

  「言いたくないが、お父さんは重病なんだ」

  「君の歌声は、お父さんには日光のようなもの」

  「父は私に出て行けと言ったんですよ」

  「100 回放り出されても息子は息子だ」

  「何年も夢見たチャンスであるショーは、明日から始まるんですよ」

- メアリーが駆け寄る

  「父が病気なので、代役を頼まれた」

  「明晩が公演のスタートだから無理」

  「5 代続くラノヴィッツ家で、お前は初めて神を裏切るのか」

  「ショービジネスの人間にも独自の信仰がある、ショーは続けなければいけない」

- 顔役が帰る

  「明日の 1 時からドレス・リハーサルだよ、気合を入れていこう」

■　58:00 からのリハーサル時の解説は省略します

- 1:15:48 リハーサル終了後、ジェイキーは自宅に向かい父親を見舞います

  「歌いにきてくれたの？」「父に会いにきただけ」

  父子の和解

- 1:19:05 「来てくれると思っていた、聖歌隊が待っているよ」

  「あなたが歌ってくれたら父さんもきっとよくなる」

- メアリー到着

  「私たちを見捨てることを考えてはいないよね？」

  「ブロードウェイで評判を落とし、二度と舞台に立てなくなるぞ」

  「人生最大のチャンスを諦めるか、母の心か壊すのか、どちらかを選ばなければならないんですね！」

■　以後、ラストはまでは解説しません。